

裾野麗峰山の会報告書

文・浜道

写真・後藤

山行番 NO. 1628
日時 2015.02.07(土)
山域 八ッ・編笠山(2524m)～西岳(2398m)
標高差 上り 富士見高原スキー場約1340m～編笠山2524m=約1184m
西岳コル約2340m～西岳約2398m=約58m
下り 西岳2398m～富士見高原スキー場約1340m=約1058m
タイム 下土狩5:00-富士見高原スキー場7:20-登山開始7:35-編笠山11:19～
12:00-青年小屋12:15-西岳13:27-スキー場15:10
参加者 後藤、小松、勝又陽、浜道=4名

起床時、冷たさを感じない朝だった。土曜日山行は珍しく、たまたま参加者の条件が一致したから良かったが、日曜日は天候が崩れるという事で、ラッキーな一日になりそうだ。

雲が空を覆っている。CLが山梨の夜明けの遅さと今日の天候を心配しながらの往路である。雲が多いと温室効果で温かい。山梨の最低気温も-1℃とやや高めだ。山行の度、悩むことだが、こんな日の雪山での服装、荷物に難儀する。取り敢えず、道具もフル装備、衣類もフル対応できるように準備していく。

中央自動車道に入るところやっと明るくなってきた。稜線がくっきり浮かび上がった白い南アルプス、甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳にお目にかかることが出来た。八ヶ岳PA付近に差し掛かる頃の八ヶ岳がベストショットとCLは言う。写真を撮るのに忙しい。

小淵沢ICを下りて、富士見高原スキー場に向かう。路肩に雪が追いやられている。車道はまったく雪もなく、凍結箇所もなかった。この辺りは例年より少ないだろうか？高原スキー場の人工雪を作る機械が早朝から唸っていた。そこでトイレを借用して、近くの富士見高原登山口駐車場に到着する。

取り敢えず、ハードシェルを着用してフル装備を背負い、ストックを手にスタート。道路から林に入ると踏み固められた雪道。トレースがある。冬靴だけで十分だった。早々にCLが暑いという事で、皆で薄着になり、荷物が増える。

暫く行くと五叉路分岐。ここで、CLが昨晚深夜まで仕事をしていたK松さんに配慮して、当初の予定の西岳を止めて編笠山のピストンを提案。メンバーは、どちらでもいい為、急遽、編笠山を目指す事になった。樹林帯に時々朝日が差し込み、気持ちが良い朝だ。盃流しの分岐を通り越し、編笠方面という標識通りに向かって黙々と歩く。途中林道を横切る。

樹林帯に入る直前、傾斜がややきつくなってきたところで、CLからアイゼンを装着するよう指示が出た。そこで、事件発生！K又さんアイゼン不持参が発覚。先週、富士山に行って手入れをした後、ザックに入れるのを忘れたらしい。そこで、CLの靴忘れ話。人間は忘れる者だ！ということで、K又さんがアイゼンなしでどこまで行けるかの挑戦に変わった。

無理をしないで、駄目だったら途中で引き返すことをCLが指示。長い上り坂を延々と登り続ける。2時間30分上って2200m地点。まだまだ樹林帯の中にいる。K又さんはアイゼ

ンが要らないらしい。滑らないコツを掴んだようだ。

2400mまで上がり、やっと樹林帯から解放され、真っ青な空、編笠山の西南に位置する山々が見えだした。遠くに雲海を俯瞰している富士山も見える。いきなりのロケーションに暫く見とれ、苦しかったことを忘れる。今の所 風もないようだ。最高の日になりそうな予感。積雪量も多くないので 編笠上部の岩々、ハイマツは所々顔をのぞかせている。雪も柔らかさそうで、アイゼンなしのK又さんは問題なく上がり続ける。

編笠頂上2524mまで急登が続く。厳しくて、苦しい上りだ。頂上近くなると案の定 風が吹き付けてきたのでフードをかぶる。時々ふっと後ろを振り返り山々を見渡す。呼吸を整えて 最後のひと踏ん張りで登った頂上付近は雪原になっていた。気持ちがホッとする。北側方面の阿弥陀・赤岳・権現が大きく迫ってくる。広大な360度パノラマスクリーンは素晴らしい。CLは早々に風の来ない青年小屋方面の傾斜で休憩モードに入っていた。

私は後続のメンバーを誘導して、やっと皆でお昼を頂戴した。長居は禁物だ。お天気は良いが氷点下なのだ。身体が冷えて来て、足がつりだす。手持ちの「芍薬甘草湯」を飲み下山準備をする。食事中、素手になったので、指先の感覚が無くなり強烈に痛む。早く歩き出して、血液を身体中に行き渡らせたい。

当初はそのまま、ピストンで下山予定だったが、CLがK又さんのアイゼンの事もあったからと思うが、検討し直した。西岳から下山しても時間の差がないので、周遊のコースに変更になった。決定したら早々に下山開始。青年小屋方面に下る。ここはトレースが少なく踏み固められていないので、樹木と積もった雪の間に生じた空間が落とし穴の様になり足を踏み込むと這い上がるのが大変。思わず落ちて叫んでしまった。予測できない所に空間がある。

青年小屋の入り口は雪で覆われていた。そこから西岳を目指す。積雪で狭くなった樹林帯の間を 枝を払いのけながら、着雪を落とさないように（K又さんは雪まみれになってしまった）歩く。西岳まで1時間10分。途中、ノーアイゼンの登山者に会い、西岳はアイゼンなしで上がれることが分かった。狭い頂上でメンバーと記念写真を撮り早々に下山。これからは予定では2時間30分という長い下りだ。途中大きなザックを背負ったスノーシューを履いた登山者とすれ違った。あれやこれやの荷物を見て、凄惨な若者に驚いた。不動の清水までへとへとになりながら下山して、美味しい不動清水を頂戴した。冬なのにあまり冷たくなく美味しい水だった。そこからは緩やかな林道を歩く。アイゼンを外し足が軽くなったら下山速度が上がる。結局、駐車場まで、1時間40分で下山したが、とにかく長かった。

復路は温泉なしで帰宅。土曜日のせいか全体的に交通状況もスムーズだったように思う。今回、K又さんはノーアイゼンで完歩することが出来た。雪の状態が良かったことを感謝。当初CLが心配していたラッセルを一度もやらずに済んだことに感謝。（少し残念！）

気象条件や山の特性などで雪質、積雪量が大いに違う。それによって使う道具も様々という事がよく解る山行でした。今回ワカンやピッケルを使わなかったが、いつも使えるように準備しておくことが基本姿勢であり、場合によっては命に関わる大事と思いました。

メンバー全員で登頂できたことに感謝です。有難うございました。お疲れ様でした。



頂上直下



昼食

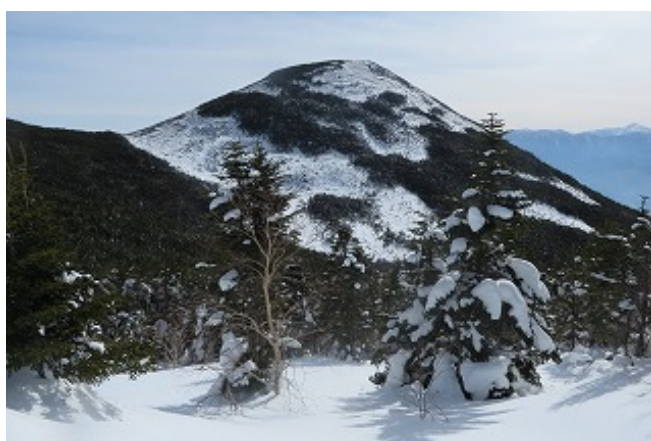


編笠下り



青年小屋

編笠山



西岳途中





西岳頂上

